

大会参加者へのご案内

参加される方は必ずご一読下さい

1. 参加費・懇親会費等の口座振り込み受付停止について

10月6日をもちまして、参加費等の口座振り込みの受付を停止させていただきます。まだお支払いいただいていない方は、当日受付にてお支払いください。

2. 受付およびクロークについて

- a. 受付は、10月14日(金)は13:00よりエコーセンター内で、10月15日(土)は8:00より東京農業大学8号館2階で、10月16日(日)は8:00より東京農業大学2号館入口で行います。毎日、受付の場所が変わりますので、ご注意ください。参加申込み済みの方は、講演要旨集・名札などをお受け取り下さい。その際、参加費等をお支払いいただいていない方は、受付にてお支払いください。当日申込みの方は、参加費等をお支払い下さい。
- b. 会場内では必ず名札を着用して下さい。懇親会参加者の名札には参加マークがつけてありますので、懇親会会場でも必ず着用して下さい。
- c. クロークは、10月15日(土)は東京農業大学8号館2階8-203教室にて8:00~18:00、10月16日(日)は東京農業大学2号館2階の2-201にて8:00~12:45まで開設します。時間までに確実にお荷物を受け取られますようお願いいたします。

3. ポスター発表をされる方へ

- a. 会期中にポスターの入替えはありません。各発表者につき、縦210cm、横90cmの展示パネルを準備します。展示パネルには演題番号が貼ってありますので、事務局が用意した画鋏で各自ポスターを掲示して下さい。
- b. 掲示作業は、10月15日(土)8:10~9:00の間に行ってください(バスを利用される方は、JR網走駅前7:40発 東京農大8:10着かJR網走駅前8:05発 東京農大8:34着の便をご利用ください)。なお、9:00までに掲示を完成させるようにしてください。午前中までに掲示が完了していない場合、ポスター賞に応募されていても評価対象になり得ないことがありますのでご注意ください。掲示ポスターの撤去は16日12:30までに行ってください。12:30以降も掲示されたままのポスターは事務局で破棄しますのでご注意ください。
- c. 10月15日(土)9:00~10:00、13:00~13:30および16日(日)9:00~9:30に、ポスター発表の集中時間帯を設けています。ポスター発表者は、この時間帯はポスター前に常時待機してください。
- d. 青年会員でポスター賞に応募希望者の優れたポスターには、野生生物保護学会からポスター賞が贈られます。ポスター賞に応募しているポスター発表は、要旨集のプログラムの演題番号の後、要旨タイトル右上および展示パネルの演題番号に*の印がつけてあります。ポスター賞の審査は野生生物保護学会の選考委員会および参加者によって行われます。ポスター賞受賞者は10月15日(土)の懇親会で発表し、受賞式を行います。

4. ポスター賞の投票について

今年より一般大会参加者もポスター賞の投票が可能となりました。要旨集に挿入されている投票用紙に、ポスター賞に応募している（要旨集の演題番号の後、要旨タイトル右上および展示パネルの演題番号に*印がついています）ポスターの中で自分が一番優秀だと思うポスターの演題番号等を記入して、ポスター会場に設置されている投票箱に10月15日(土)15:00までに入れて下さい。ポスター賞に応募していないポスターの演題番号を書いた場合は無効となりますので、ご注意ください。

5. テーマセッション(TS)を運営される方へ

テーマセッションは自主運営です。

10月14日(金)のテーマセッションは受付の際に、各発表者のファイルを世話人がまとめたものを提出願います。

10月15日(土)の各会場には、常設のパソコン1台(Windows XP、Power Point 2003)に接続したプロジェクターを用意してあります。TSの空き時間に各世話人が発表者分をまとめて、各会場のパソコンにファイルを入れて下さい。また、ファイルの確認、司会進行、機材操作および後片付け等は世話人を中心に行ってください。尚、各会場には常時スタッフを配置しておりますので、何か不明な点がありましたらお聞き下さい。個人のパソコンを用いての発表はできませんので、ご了承ください。

6. 各種委員会に参加される方へ

各種委員会は10月14日(金)エコセンターで行います。日程表をご覧ください、時間と場所をご確認下さい。

7. プログラムの一部変更について

テーマセッション

テーマセッションの一部が10月14日(金)の夕方以降に設定されています。会場は役員会など各種委員会が開催される網走市街地のエコセンターです。東京農業大学ではありませんからご注意ください。

公開シンポジウム

10月16日(日)9:30~12:30(当初案内より時間が30分繰り下げとなりました)まで、東京農業大学2号館大講義室にて公開シンポジウム「世界自然遺産と生物多様性、その展望と課題 ~知床から見えてきたもの~」を開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしております。公開シンポジウムには、どなたでも参加できます。

8. 懇親会について

10月15日(土)19:00~21:00まで、網走セントラルホテル2階中会場(網走市南2条西3丁目 TEL 0152-44-5151)で行います。参加予定の方は、東京農大18:05発のバスに乘車ください。このバスに乗り遅れますと懇親会に参加できなくなります。終着の網走バスターミナルから懇親会場(網走セントラルホテル)までは徒歩3分です。

懇親会会場には定員の上限があります。参加される皆様に快適にお過ごしいただけるよう懇親会の事前申込みをお勧めしておりましたため、事前申込みで定員に達した場合は、当日の懇親会のお申込みはお断りさせていただく場合がございますのでご了承ください。

9. 総会について

総会は、10月15日(土)11:30~12:15に東京農業大学8号館3階8-302で行います。会員の方は必ずご参加ください。

青年部会の総会は、総会後に同会場(8号館3階8-302)にて12:15~12:45まで開催します。部会員の方の参加は積極的にご参加ください。

行政研究部会の総会は、12:15~13:00に8号館2階8-202で行います。部会員の方の参加は自由かつ準会員もオブザーバー参加可能ですので、積極的にご参加ください。

10. 昼食について

大学周辺にコンビニ、飲食施設は一切ございません。昼食は弁当などご自身で用意頂くか、学内の食堂、売店をご利用ください。

(食堂) 第一食堂 ジングルポケット 10月15日(土)10:00~14:00

(売店) PLUS 企画 10月15日(土)9:00~15:00

なお16日(日)は食堂、売店共に営業をしておりませんので、昼食は網走市内などで済ませてください。

11. バスの運行

- a. 東京農業大学と網走駅や網走バスセンターまでの公共交通手段はバスかタクシーのみです。下線(推奨)か太字(推奨・臨時)のバスをご利用下さい。バス代は東京農業大学とバスターミナル間は350円、東京農業大学と網走駅は380円となります。

15日(土)

網走市内 東京農業大学

*網走駅の乗り場：駅向かい側「ビクトリア」の前

**網走バスターミナル乗り場：バスターミナルの建物の向かい側(南側)

7:40(網走駅*) 7:46(網走バスターミナル**) 8:10(農大)推奨

8:05(網走駅*) 8:10(網走バスターミナル**) 8:34(農大)推奨・臨時・2台

8:20(網走駅*) 8:26(網走バスターミナル**) 8:50(農大)

8:50(網走駅*) 8:56(網走バスターミナル**) 9:20(農大)

9:55(網走駅^{*}) 10:01(網走バスターミナル^{**}) 10:25(農大)

東京農業大学 網走市内

12:40(農大) 13:02(網走バスターミナル) 向陽入口^{***}

14:45(農大) 15:07(網走バスターミナル) 向陽入口^{***}

16:25(農大) 16:47(網走バスターミナル) 向陽入口^{***}

16:30(農大) 16:54(網走バスターミナル) 17:02(網走駅)

18:05(農大) 18:27(網走バスターミナル) 18:35(網走駅) 推奨・臨時・3台

16日(日)

網走市内 東京農業大学

8:20(網走駅) 8:26(網走バスターミナル) 8:50(農大) 推奨・臨時・3台

11:40(網走バスターミナル) 12:04(農大)

東京農業大学 網走市内

12:15(農大) 12:37(網走バスターミナル) 向陽入口^{***}

12:50(農大) 13:12(網走バスターミナル) 13:20(網走駅) 推奨・臨時・1台

13:00(農大) 13:22(網走バスターミナル) 13:30(網走駅) 推奨・臨時・1台

^{***}これらのバスは網走駅は通りません。網走駅の最寄りの停留所は「向陽入口」です。

12. 会場へのアクセス

a. エコーセンターへのアクセス

- ・(網走駅および網走バスターミナルから) 徒歩 10分~15分

b. 東京農業大学へのアクセス

- ・(網走駅および網走バスターミナルから) バス 30分あるいはタクシー 20分
- ・(女満別空港から) 網走駅(25分)および網走バスターミナル(30分)までバス その後東京農業大学行きバス(30分)あるいはタクシー 20分

13. 車での来場について

エコーセンターおよび東京農業大学には駐車スペース(無料)がありますので、車での来場が可能です。車で来場予定の方は、現地の駐車指示に従って駐車して下さい。

第17回野生生物保護学会北海道大会 日程表

10月14日(金)会場:エコーセンター(網走市街)

種別	会場	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時
受付	エコーセンター 2階								受付(エコーセンター2階)					
委員会・幹事会・理事会 テーマセッション	エコーセンター 交流室A				学会誌編集 委員会						TS2(面白いワナ構想の 課題・展覧)			
幹事会・委員会 テーマセッション	エコーセンター 交流室B				フォーラム誌 編集委員会							TS1(トド・ゼニガタとの 共存に向けて)		
幹事会・委員会 テーマセッション	エコーセンター 交流室C													TS3(行政研究部会)

< 交通案内(14日) >

女満別空港～網走市内:バス30分
網走駅～エコーセンター:徒歩15分
網走バスターミナル～エコーセンター:徒歩10分
(位置は市内詳細図を参照ください)

10月15日(土)会場:東京農業大学 2号館・8号館(懇親会は網走セントラルホテル)

種別	会場(東京農大)	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時
受付	8号館 2階				受付(8号館2階)									
テーマセッション	8号館 203	バス時刻 ①		TS4(保野管理システム の再構築)					TS8(網走に導入する 野生動物)		TS10(知床のエコ ツアーシステム)			
テーマセッション 行政部会総会	8号館 202	7:40網走駅 8:10農大		行政研究 部会総会				TS7(野生生物と交 渉)		TS9(絶滅種復活・共 生時代に向けて)		TS11(エゾシカ管 理と有効活用)		
ポスター発表	2号館 202, 203, 204	②		ポスター発表				コアタイム		ポスター発表 ※ポスター一貫の投票締め切りは15時です				
総会	8号館 302	8:34農大 ↓												
企業展示ブース	2号館 202, 203, 204	③												
休憩室・会議他	8号館 204	8:20網走駅 8:50農大 (右の時刻 表参照)												
事務局、クローク	8号館 201													
懇親会	網走セントラルホテル													懇親会

< 交通案内(15日) >

網走市街→東京農大バス

網走駅	7:40	8:05	8:20	8:50
③乗場※				
網走バスターミナル⑤乗場※	7:46	8:10	8:26	8:56
東京農大	8:10	8:34	8:50	9:20

東京農大→網走市街方面バス

東京農大	16:30	18:05
網走バスターミナル	16:54	18:27
網走駅	17:02	18:35

10月16日(日)会場:東京農業大学 2号館

種別	会場(東京農大)	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	
受付	2号館 1階				受付(2号館1階)				
公開シンポジウム	東京農大 2号館・大講義室								
ポスターセッション	2号館 202, 203, 204	バス時刻 ①		公開シンポジウム (2号館大講義室)					
企業展示ブース	2号館 202, 203, 204	8:20網走駅 8:50農大 (右の時刻 表参照)		ポスター発表 (2号館202, 203, 204)					
事務局、クローク	2号館 201			企業展示ブース (2号館202, 203, 204)					

< 交通案内(16日) >

網走市街→東京農大バス

網走駅	8:20
③乗場	
網走バスターミナル⑤乗場	8:26
東京農大	8:50

東京農大
→網走市街方面バス

東京農大	12:15	12:50	13:00
網走バスターミナル	12:37	13:12	13:22
網走駅	通りま せん	13:20	13:30

※網走駅③乗場は、ステキキボクリア前です。

※網走バスターミナル⑤乗場は、バスターミナルの建物の道路をはさんで向かい側です。

プログラム

10月14日（金） 網走市エコセンター

■各種委員会、理事会

- 11:00～12:00 学会誌編集委員会（交流室A）、フォーラム誌編集委員会（交流室B,C）
12:30～14:00 行政研究部会幹事会（交流室A）
12:30～15:30 青年部会幹事会（交流室B,C）
14:00～16:30 理事会

■テーマセッション

- 16:00～19:00 TS-1（交流室B,C） 北海道周辺海域のトド・ゼニガタアザラシと人間活動との共存に向けて
世話人：坪田敏男（北海道大学大学院獣医学研究科）・藤井 啓（ひれあし研究会）
16:30～18:00 TS-2（交流室A） 増えつづけるシカに対抗するツール； 困いワナ捕獲の課題と展望
世話人：山中正実・石名坂豪（公益財団法人 知床財団）
19:00～20:30 TS-3（交流室C） 雑誌「鳥獣行政-野生生物保護行政」のアーカイブから未来の野生生物保護行政を考える
世話人：奥山正樹（環境省生物多様性センター）・増澤直・熊田章子・逸見一郎（NPO法人地域自然情報ネットワーク）

10月15日（土） 東京農業大学 2号館・8号館

■テーマセッション

- 10:00～11:30 TS-4（8号館203） 日本の野生動物保護管理システムの再構築を目指して（理事会主催）
世話人：湯本貴和（総合地球環境学研究所）・横山真弓（兵庫県立大学森林動物研究センター）
10:00～11:30 TS-5（8号館202） 青年部会コミュニケーションフォーラム：どうする！？野生生物管理の担い手育成
世話人：角田 裕志（東京農工大学農学部野生動物保護学研究室）・安田 章人（東京大学・日本学術振興会）・満尾世志人（龍谷大学理工学部）・李 佳璘（東京大学大学院）・江成 広斗（宇都宮大学農学部附属里山科学センター）・久保 雄広（北海道大学農学院）・桜井 良（フロリダ大学大学院野生生物生態保護学科）・関根 聡子・中村 大輔（岐阜大学大学院連合農学研究科）
13:30～15:00 TS-6（8号館203） 現場を動かす社会科学 ～野生動物問題解決に向けた実践と試行錯誤から～
世話人：鈴木克哉（兵庫県立大学／兵庫県森林動物研究センター）・久保雄広（北海道大学農学院）
13:30～15:00 TS-7（8号館202） 「野生生物と交通」に関する話題－広がる問題
世話人：浅利 裕伸（株式会社 長大）・鹿野たか嶺・野呂美紗子（北海道開発技術センター）・山田芳樹（株式会社ドーコン）
15:00～16:30 TS-8（8号館203） 都市に侵入する野生動物に対応するための体制づくりを考える
世話人：辻知香（岐阜大学大学院連合獣医学研究科）・横山真弓（兵庫県立大学森林動物研究センター）
15:00～16:30 TS-9（8号館202） 絶滅種復活・共生時代実現に向けて
世話人：井上剛（一般社団法人 日本オオカミ協会）
16:30～17:45 TS-10（8号館203） 知床におけるエコツーリズムの現状と展望
世話人：笠井文考（東京農業大学 生物資源開発研究所）・敷田麻実（北海道大学観光学高等研究センター）
16:30～17:45 TS-11（8号館202） エゾシカの個体数管理と有効活用の両立は可能か？
世話人：北原理作（東京農業大学生物産業学部／NPO法人 北海道自然資源活用機構）

■総会、各部会総会

- 11:30～12:15 総会（8号館302）
12:15～12:45 青年部会総会（8号館302）
12:15～13:00 行政研究部会総会（8号館202）

■ポスター発表（所属は筆頭者のみ示しています）

9:00～18:00※ 2号館202, 203, 204

※コアタイムは9:00～10:00と13:00～13:30、ポスター賞投票締切は15:00

ポスター賞候補者のポスター番号には*をつけています。

- P- 1 リンゴ果実の成熟ともなう酸度と糖含量の変化
時田 昇臣（日本獣医生命科学大学）・奈良井 朝子
P- 2 窒素吸収・根呼吸特性からみた北方系湿性スゲ属植物の温暖適応
小泉 優人（東京農業大学大学院・生物産業学研究科）・新田 矩譜流・鈴木 倣司・中村 隆俊
P- 3 分布様式の異なる湿原性スゲ属植物2種の遺伝的多様性
鈴木 雷太（東京農業大学大学院生物産業学研究科）・森 いずみ・鈴木 倣司・中村 隆俊
P- 4 淡水カイメン乾燥芽球の液体窒素貯蔵
貝守 昇（八戸工業大学 バイオ環境工学科）・佐々木 幸平・飯島 真
P- 5 南極ぬるめ池における線虫類の鉛直分布
山口 梓（東海大学海洋生物科学科）・斎藤 裕美・高橋 邦夫
P- 6 * 水温の変化はニホンザリガニの生息に影響を与える
浅利 裕伸（株式会社 長大）・石川 博規・池田 大介・安木 進也・郷田 智章
P- 7 河床粗度による水生昆虫の着底効果
斎藤 裕美（東海大学海洋生物科学科）・宗村 一樹・谷野 賢二
P- 8 河床粗度と流速における水生昆虫の着底効果-室内実験-
新谷 彬（東海大学海洋生物科学科）・斎藤 裕美・谷野 賢二・木村 仁美

ポスター賞候補者のポスター番号には*をつけています。

- P-9 支笏湖産アメマスの耳石成長と体長の関係
大橋 亮介 (東海大学海洋生物科学科)・斎藤 裕美
- P-10 3面護岸小河川における簡易魚道設置の効果
山本 敦也 (東京農業大学大学院・生物産業学部)・金岩 稔・町田 善康・野本 和宏・笠井 文考
- P-11 安定同位体を用いた支笏湖の食物網の季節変化
黒丸 善充 (東海大学海洋生物科学科)・斎藤 裕美
- P-12 境港で水揚げされた太平洋クロマグロの体長-体重関係の推定
鶴岡 鯨魚 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・金岩 稔・竹内 幸夫
- P-13 行政と協働したイトウの棲む川づくり
笠井 文考 (東京農業大学・生物資源開発研究所)・森 高志・滝澤 素子
- P-14 北太平洋での延縄操業データを用いた魚類の環境要求性解析
鄭 八起 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・金岩 稔
- P-15 網走川上流域における魚類相の環境要求性解析
田端 晃多 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・山本 敦也・金岩 稔
- P-16 網走川水系における外来種が在来種の食性に与える影響
福重 智宏 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・山本 敦也・金岩 稔
- P-17 鎌倉市に生息するタイワンリス (*Callosciurus erythraeus taiwanensis*) 有害駆除個体の胃内容物分析
塚本 拓也 (立正大学大学院)・須田 知樹
- P-18 タンチョウと人との関係史—近代日本におけるタンチョウの狩猟—
久井 貴世 (北海道大学大学院文学研究科)
- P-19 ダムの水位上昇によりトンネル内に閉じ込められたキクガシラコウモリの行動
向山 満 (NPO法人 コウモリの保護を考える会)・岡本 吉司
- P-20 北海道江別地域におけるモモジロコウモリ及びドーベントンコウモリの瞬間移動
村野 紀雄 (元酪農学園大学)・近藤 憲久・芹澤 裕二・宮木 雅美・沖山 茂・讃井 祥平・上口 壮太・山口 高広
- P-21 北海道大空町で確認されたヒメヒナコウモリの出産哺育コロニー
近藤 憲久 (根室市歴史と自然の資料館)・黒澤 春樹・倉野 翔史・福井 大
- P-22 北海道羅臼峯浜沖のコウモリ類
近藤 憲久 (根室市歴史と自然の資料館)・中島 宏章・小島 瑛介・須貝 昌太郎・黒澤 春樹・倉野 翔史
- P-23 ネズミルカの横隔膜における抗酸化能の推定
新井 優一 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・櫻井 裕太・桜井 智野風・小林 万里
- P-24 沖縄島での漁業者によるジュゴンの喰み跡モニタリング調査
小澤 宏之 (一般財団法人沖縄県環境科学センター)・平良 栄康・金城 富久・古仲 信昭・森康 二郎・鹿野 久男・大林 圭司
- P-25 カルマンフィルターを用いた海生哺乳類の測位誤差の修正法
西本 慧 (東京農業大学大学院生物産業学研究科アクアバイオ学専攻)・小林 万里
- P-26 アザラシはどうして鳴くのか—近縁2種の発声要因解明の試み—
木内 政寛 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・赤松 友成・小林 万里
- P-27 厚岸大黒島におけるゼニガタアザラシの個体間距離
村井 一紀 (東京農業大学 生物産業学研究科 アクアバイオ学専攻)・小林 万里
- P-28 厚岸地域におけるゼニガタアザラシの採餌行動と上陸行動
羽根田 貴行 (東京農業大学大学院 生物産業学研究科)・田村 善太郎・小林 万里
- P-29 保護されたゴマフアザラシ幼獣の放獣後の回遊行動
三谷 曜子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)・高橋 菜里・高石 雅枝・廣崎 芳次・片倉 靖次・宮下 和士
- P-30 夏季に野付湾を利用するゴマフアザラシの生態解明
中村 尚稔 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・小林 万里
- P-31 礼文島のゴマフアザラシの利用上陸場の季節変化とその環境条件
渋谷 未央 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・小林 万里
- P-32 礼文島周辺海域におけるゴマフアザラシの胃寄生性アニサキス科線虫
宇山 倫美 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・小林 万里
- P-33 北海道日本海側におけるゴマフアザラシの個体数の季節変動
加藤 美緒 (東京農業大学大学院・生物産業学研究科)・小林 万里
- P-34 世界遺産登録後の知床半島東岸における、トドの越冬来遊状況
石名坂 豪 (公益財団法人 知床財団)・吉田 剛司・山中 正実
- P-35 沖縄島における新規のマングース北上防止柵の形状実験について
河内 紀浩 (八千代エンジニアリング株式会社)・南木 大祐・水川 真希・小倉 剛・飯島 康夫
- P-36 福島県郡山市におけるアメリカミンクの食性
伊原 禎雄 (奥羽大学 生物学教室)・稲葉 修・藤原 かおり・佐藤 洋司
- P-37 糞DNA解析法を用いた渡島地域における哺乳類の動態モニタリング
天池 庸介 (北海道教育大学函館校大学院教育学研究科教科教育専攻)・村上 貴弘
- P-38 糞中DNAを用いたキタキツネ (*Vulpes vulpes schrenckii*) の食性解析
多田 智記 (東京農業大学生物産業学研究科生物生産学専攻)・松井 遥沙・近藤 慧・和田 健太・白木 彩子・横濱 道成・吉川 欣亮

- P-39 明治一平成の新聞記事に見るカワウソに対する関心の変化
山本 佳代子(宮内庁宮務課専門員)・安藤 元一・小川 博・秋篠宮 文仁
- P-40 * アライグマ探索犬の導入と育成方法に関する研究
中井 真理子(北海道大学文学部地域システム科学)・山下 國廣・福江 佑子・池田 透
- P-41 * アライグマ捕獲のためのNest Box Trap の開発
島田 健一郎(北海道大学文学研究科地域システム科学)・池田 透・川崎 綾子・小谷 栄二
- P-42 島根県におけるアライグマの生息実態と捕獲個体の分析
金森 弘樹(島根県中山間地域研究センター)・竹下 幸広・澤田 誠吾・金澤 紀幸・高田 雄三・佐藤 宏
- P-43 クマの出没情報から読めること
野崎 英吉(石川県環境部自然環境課)
- P-44 肉牛飼育場に出没したツキノワグマの軽元素安定同位体比
中下 留美子(独立行政法人森林総合研究所)・鈴木 彌生子・林 秀剛・泉山 茂之
- P-45 * ツキノワグマに関する新聞報道の内容分析
桜井 良(フロリダ大学大学院・野生生物生態・保護学科)
- P-46 DNA分析のためのダートバイオプシによる野生ヒグマの組織標本採取の試み
山中 正実(公益財団法人 知床財団)・森脇 潤・坪田 敏男・中西 将尚・増田 泰・下鶴 倫人
- P-47 サル群の出没に関する農村の要因と、その改善による被害対策の効果について
山端 直人(三重県農業研究所)・鈴木 克哉・室山 泰之
- P-48 通電式支柱を用いたサル用電気柵の効果について～兵庫県香美町の事例～
鈴木 克哉(兵庫県立大学/兵庫県森林動物研究センター)・田中 利彦・田野 全弘・中村 智彦・稲葉 一明
- P-49 和歌山県果樹試験場ほ場におけるニホンザルの出没状況
法眼 利幸(和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場)・山本 浩之・井沼 崇・貴志 学・井口 豊・森口 幸宣
- P-50 子ジカを捕まえるー洞爺湖中島の事例ー
東谷 宗光(酪農学園大学環境システム学部)・松浦 友紀子・伊吾田 宏正・吉田 剛司・梶 光一
- P-51 * 野外で採材したエゾシカの糞便におけるNested PCRを用いた雌雄判別
山崎 翔気(岐阜大学大学院連合獣医学研究科)・本井 祐太・長井 和哉・石名坂 豪・浅野 玄・鈴木 正嗣
- P-52 * 牧草地におけるくくりわなを用いたエゾシカ捕獲の試みとその効率性の検討
亀井 利活(岐阜大学・野生動物医学研究室)・山崎 翔気・柳川 洋二郎・近藤 誠司・秦 寛・浅野 玄・鈴木 正嗣
- P-53 * 都市部近郊でのエゾシカのロードキルの傾向
野呂 美紗子(社団法人 北海道開発技術センター)・鹿野 たか嶺・原 文宏
- P-54 ニホンジカ捕獲用セルフロックスタンションの開発
大橋 正孝(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター)・大竹 正剛・大場 孝裕・山田 晋也・古谷 喜徳
- P-55 困い込み捕獲がニホンジカに与えるストレスー血清コルチゾールとクレアチンキナーゼの測定ー
山田 晋也(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター)・大竹 正剛・大場 孝裕・大橋 正孝
- P-56 * エゾシカ個体群の群れ構成調査におけるカメラトラップ法の評価
池田 敬(東京農工大学 野生動物保護学研究室)・高橋 裕史・吉田 剛司・伊吾田 宏正・梶 光一
- P-57 * シカ管理成功の未来ー英国における狩猟動物管理者の教育方法ー
細田 祥子(酪農学園大学大学院・酪農学研究科)・伊吾田 宏正・チャールズ スミス ジョーンズ・吉田 剛司
- P-58 * ニホンジカによる上位消費者への影響
關 義和(東京農工大学大学院)・奥田 圭・伊東 正文・小金澤 正昭
- P-59 * ニホンジカによる農作物被害の環境要因と被害認識
中村 大輔(岐阜大学大学院連合農学研究科)・星屋 明孝・村瀬 豊・松本 康夫
- P-60 * ニホンジカのラインセンサス法におけるサーモトレーサの有効性について
岩本 千鶴(宇都宮大学大学院農学研究科)・小金澤 正昭
- P-61 * 栃木県奥日光におけるオサムシ科に対するシカ高密度化の影響
岡田 拓也(立正大学大学院地球環境科学研究科)・須田 知樹
- P-62 * 栃木県奥日光地域におけるニホンジカとフクロウの種間相互作用
奥田 圭(東京農工大・院・連農)・伊藤 正文・藤津 亜弥子・關 義和・小金澤 正昭
- P-63 * 防護柵の設置に取り組む中山間地集落周辺に生息するイノシシの行動パターン
城後 由里(広島大学・生物圏科学研究科)・木場 有紀・谷田 創
- P-64 和歌山県のカンキツ園周辺におけるイノシシのエサ利用状況
山本 浩之(和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場)・法眼 利幸・井沼 崇・貴志 学・井口 豊・森口 幸宣
- P-65 雑誌「鳥獣行政-野生生物保護行政」のあゆみ
奥山正樹(環境省生物多様性センター)・増澤直・熊田章子・逸見一郎
- P-66 * 水辺生態系改善事業が生物多様性と利用者に与える影響
三好 優磨(東京農業大学大学院農学部バイオセラピー学専攻 野生動物学研究室)・安藤 元一・小川 博
- P-67 アフリカゾウによる農作物被害対策における観光の役割
岩井 雪乃(早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター)
- P-68 * スポーツハンティングがもたらす光と影-住民参加型保全、倫理的批判、そして地域社会ー
安田 章人(東京大学/日本学術振興会)
- P-69 * 広報媒体を用いた野生動物の注意喚起による効果課題

鹿野 たか嶺（社団法人 北海道開発技術センター）・野呂 美紗子・原 文宏

P-70 低濃度放射性物質が野生鳥獣管理に及ぼす影響
小金澤 正昭（宇都宮大学農学部附属演習林）

P-71 * 河口湖における近年の遊漁者数変化と自然環境保全政策の関係
角田 裕志（東京農工大学農学部 野生動物保護学研究室）

■企業展示ブース

9:00～18:00 2号館202, 203, 204

■懇親会

19:00～ 網走セントラルホテル

10月16日（日）東京農業大学 2号館

■公開シンポジウム

9:30～12:30 2号館・大講義室

公開シンポジウム「世界自然遺産と生物多様性、その展望と課題～知床から見てきたもの～

■ポスター発表（15日と同様：ポスターの入れ替えはありません）

9:00～12:30 2号館202, 203, 204

※コアタイムは9:00～9:30

■企業展示ブース

9:00～12:00 2号館202, 203, 204

第17回野生生物保護学会北海道大会 公開シンポジウム

世界自然遺産と生物多様性、その展望と課題 ～知床から見えてきたもの～

日時：平成23年（2011年）10月16日（日）9：30～12：30
場所：東京農業大学オホーツクキャンパス（網走市八坂196）
大講義室（2号館1階）・入場無料

プログラム

9：30～9：40 開会の挨拶

増子孝義（東京農業大学生物産業学部生物生産学科教授）

9：40～10：20 基調講演

生物多様性の視点から見た世界自然遺産

吉田正人（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）

10：20～10：30 休憩

10：30～12：30 パネルディスカッション

コーディネーター：

大泰司紀之（北海道大学名誉教授・知床世界自然遺産科学委員会会長）

パネリスト：

鳥澤 雅（北海道立総合研究機構水産研究本部長・海域ワーキング委員）

中村太士（北海道大学大学院農学研究科教授・河川アドバイザー会議座長）

間野 勉（北海道立総合研究機構環境・地質研究本部環境科学研究センター
研究主幹・ヒグマ管理方針検討ワーキング委員）

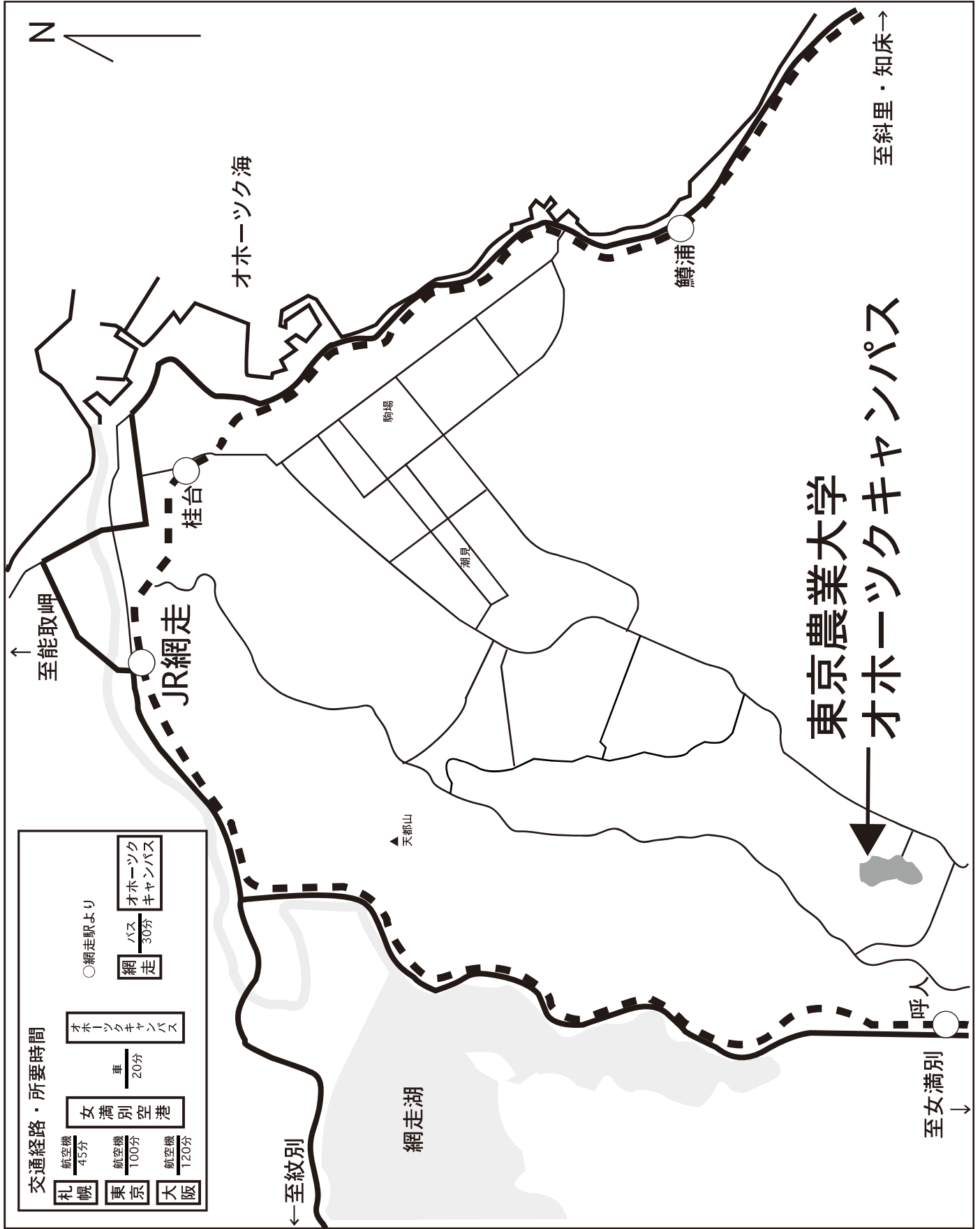
梶 光一（東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授・エゾシカ・陸上生
態系ワーキング座長）

敷田麻美（北海道大学観光学高等研究センター教授・適正利用・エコツーリ
ズムワーキング座長）

コメンテーター：

中山陸治（環境省釧路自然環境事務所・次長）

東京農業大学オホーツクキャンパスまでのアクセス



網走市市街図（エコセンター2000位置図）

